

平成26年度 第2回 平塚市美術館協議会 会議録

開催日時 平成27年3月18日(水) 14時00分～15時05分
開催場所 平塚市美術館 研修室
出席者 会長 水沢勉
委員 平野恵美子、栗木雄剛、府川文子、加藤宏、田平富實子
事務局 後藤社会教育部長、草薙館長、小林副館長、土方館長代理、
近藤担当長、勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員

傍聴者 なし

会議の概要

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 議題
 - (1)平成26年度の事業報告について
これまでの事業報告(事務局から説明)
作品 展覧会 教育普及 その他の事業 施設利用者等の統計
 - (2)平成26年度奏プラン事業の点検評価について(事務局から説明)
 - (3)平成27年度の事業予定について(事務局から説明)
展覧会 教育普及
 - (4)その他
- 5 閉会

館長あいさつ

本日は、平成26年度の展覧会などの報告、平成27年度の事業予定を説明いたします。

美術館は、展覧会や美術教育の普及体験のワークショップなどこれまでも活発に事業を行ってきていますが、これから先もっと美術館を良くしていくため、これまでの実施方法なども少し変えていかなければいけないと思っています。委員のみなさまのご意見・アドバイスをよろしく願いいたします。

議題及び質疑

- (1)平成26年度美術館事業について これまでの事業報告
下半期の展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。

その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理、ミュージアムコンサートや防災訓練等の内容等を事務局から説明。

教育普及事業(スクールプログラム)について

委員 ワークショップ平塚盲学校彫刻鑑賞ツアーに参加した生徒の様子は、
事務局 はじめは、生徒に彫刻作品の説明をしないで、作品に触れることに集中していただき、
どのように感じるか、声掛けをしながら、体験してもらいました。
生徒たちは、楽しそうにしていました。
また、引率の先生から「はじめ、作品の説明をしないで生徒が彫刻からどのように感じたかのやり方は非常に良かった」と意見をいただきました。
今後も美術館は生涯学習機関として、盲学校の生徒を受け入れていきたい。

施設の管理について

事務局 3月に実施した防災訓練の実施内容を説明。
委員 この周辺の海拔、津波の想定は、どれくらいか。防災訓練で津波を想定した訓練を実施しているか。
事務局 この付近の海拔は約8メートル程度で最近の県による津波想定は、9.6メートルです。今回の訓練は、地震後火災が発生したことを想定し訓練を実施したものです。今後想定外の大津波の避難訓練も検討したい。
委員 私が所属している美術館は、場所が海岸付近なので津波避難訓練を実施した。平塚市美術館も防災訓練に津波を想定した訓練を取り入れていただきたい。

(2)平成26年度奏プラン事業の点検評価について

平塚市教育振興基本計画(奏プラン)の概要及び「魅力ある美術展覧会事業」ほか4事業の点検評価について、協議会委員の意見や美術館の取組み等について説明。

美術品の調査・収集事業について

委員 所蔵作品の広報について、評価はどのようになっているのか。
事務局 奏プランでは、美術品の調査・収集事業の目標値は、新たに平成27年度から目標値設定であるため、平成26年度の評価設定項目はありません。
委員 作品購入は難しいから、所蔵作品の情報提供の充実を実施していただきたい。

(3)平成27年度の事業予定について

上半期の展覧会事業の内容・会期等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。

展覧会事業について

委員 濱谷浩の世界展での関連事業は、何を実施する予定か。
事務局 学芸員によるギャラリートークを行う予定です。
委員 写真の展覧会は、すでに何回か開催しているのか。
事務局 何回か開催していますが、ここ数年は、開催していません。
濱谷浩は、平塚市美術館コレクションの大事な作家であり、記念事業として開催します。

この展覧会は平塚市美術館の独自展覧会ですが、別の展覧会として世田谷美術館や新潟県立美術館でも開催されます。

(4) その他

展覧会の位置付けについて

- 事務局 現在展覧会は、「企画展」と「特集展」に区分して位置付けをしています。
- 企画展は、横山大観の富士展など大規模に実施する展覧会で、比較的著名な作家の作品の展覧会です。
- 特集展は、松尾敏男展など作家名のついた借用作品中心の展覧会と春の所蔵品展など所蔵作品を活用した展覧会の2種類があります。
- 特集展のうち、作家名のついた借用作品中心の展覧会を28年度以降、特集展と分けて新たに中企画展とし、所蔵作品を活用した展覧会のみを特集展と位置付けていきたい。
- 観覧料は、企画展と中企画展の2つの展覧会の組み合わせで同日に観覧する場合は、企画展観覧料で観覧していただけるよう現在と同様な取扱いを考えています。
- 中企画展のみを観覧する場合には、作品借用等にある程度費用がかかるため400円程度、所蔵作品を活用する特集展の場合には、現在同様200円と考えていますが委員の皆様のご意見をお願いいたします。
- 委員 今回提案の展覧会の位置付けに賛成です。横浜や東京の美術館の観覧料は高いが、平塚市美術館は公立美術館であり、観覧料をおさえていることが分かる。世間一般の常識の料金設定であればよいと思う。
- 委員 企画展、中企画展の位置付けについて、開催する側は意識を持ってやっているし、観覧する側は意識を持って観てもらいたい。展覧会に見合う料金設定である。所蔵作品を活用する特集展も開催するから問題はない。
- 全委員 展覧会の位置付けについて了承。

平成26年度第2回平塚市美術館協議会次第

平成27年(2015年)3月18日(水)

場 所 平塚市美術館研修室

時 間 午後2時から

1. 開会

2. 委員紹介

3. 職員紹介

4. 議題

(1) 平成26年度の事業報告について

作品	P 1
展覧会	P 4
教育普及	P 16
その他の事業	P 22
施設利用者等の統計	P 28

(2) 平成26年度奏プラン事業の点検評価について

(3) 平成27年度の事業予定について

展覧会	P 31
教育普及	P 36

(4) その他

5. 閉会

奏プランの位置付け

奏プランは、「豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち」づくりを教育分野の基本目標に掲げる「平塚市総合計画」の方針「一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ」「生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ」を達成するために、本市教育委員会が取り組む教育振興基本計画と位置付けています。

奏プランの実施計画を構成する事業は、5年間を見据えつつ取り組めますが、毎年度実施する「教育委員会の点検・評価」の結果や社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しをしながら推進します。

また、各年度に「平塚市教育の方針」として、当該年度の基本方針や重点的に取り組む事業を明示します。

重点項目	重点項目2 地域文化の活性化	番号	2 - 1
事業名	美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施）		
事業概要	担当学芸員が展覧会のポイントや作品の解説・質疑応答等を行いながら、展覧会全体を理解してもらうギャラリートークを行います。		
主な行動目標	美術に対する関心を高めてもらうため、参加者を増やします。 目標値は、展覧会でのギャラリートークへの参加者数		
平成26年度 目標値	平成26年度 実績値	平成27年度 目標値	
600人	646人	600人	
1 平成26年度の実績（平成26年12月28日現在）			
展覧会名		実施回数	参加者数
「石田徹也展」		4回	318人
「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」		2回	54人
「横山大観の富士展」		2回	115人
「袴田京太郎展」		2回	110人
「新収蔵作品展」		2回	28人
「冬の所蔵作品展」		1回	8人
ロビー展 「小田薫の彫刻」		1回	13人
合計		14回	646人
特記事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・石田徹也展のギャラリートークは、毎回70人以上の参加者があり、好評であった。 ・袴田京太郎氏作家本人によるギャラリートークは人気があり、参加者が多かった。 ・横山大観の富士展では、鑑賞&トークを実施し、参加者が大観の描いた富士山を鑑賞し、学芸員の気分になって作品について語ってもらった。 			
協議会委員の意見欄			
事業の感想やコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリートークは鑑賞者の作品理解をより深める。高い目標値を達成しているのは、展覧会に応じて工夫したトークを展開しているからと思います。 ・作品をより深く知り、より身近に感じる場で楽しく鑑賞できる。 ・市民が美術に対し、関心を持つ良い機会であり、大いに実施すべきである。 			
今後期待すること			
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も作家本人や作品、展覧会の特徴を踏まえてトークを継続して実施してもらいたい。 ・学芸員の説明は好評のため、継続し回数も増やしてもらいたい。 ・夏休み中の企画展やロビー展等で中学生対象の作家によるギャラリートークを実施してもらいたい。中高生の言語表現力を支えるために対話体験型のギャラリートークができるとよい。 ・所蔵品展での実績等が弱いため、案内ガイドなどでも所蔵品が如何に大事であるかアピールしてもらいたい。 			
【美術館の取組み】			
<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者が作品に対し理解を深め、より身近に感じていただけるよう、今後も作家本人によるトークや学芸員によるギャラリートークを継続します。 			

重点項目	重点項目2 地域文化の活性化	番号	2 - 2
事業名	美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催）		
事業概要	美術に親しむ人々の拡大と美術に関する学習活動や体験を目的に、子供・親子や成人を対象としたワークショップを行います。		
主な行動目標	美術体験に対する関心を高めてもらうため、参加者を増やします。 目標値は、ワークショップへの参加者数		
平成26年度 目標値	平成26年度 実績値	平成27年度 目標値	
1,200人	1,421人	1,200人	
<p>1 平成26年度の実績（平成26年12月28日現在）</p> <p>美術への関心と親しむ人を増やす目的の体験型学習活動として、子供対象・親子対象・一般対象・スクールプログラムの43講座を実施し、1,421人の参加があった。</p> <p>中でも「赤ちゃんアート」は1歳から未就学までの子どもと保護者が絵の具、折り紙などでふれあい・コミュニケーションを体験する講座で、日常を忘れリラックスできたという人気が高いワークショップとなっている。</p> <p>特記事項</p> <p>美術鑑賞教育に関する試行として、平塚市小学校教育研究会図工部会の依頼により、研究会図工部会の教職員を対象に対話型鑑賞教育の体験を実施した。（37名参加）</p> <p>そして、城島小学校の生徒40名を対象にアートカードゲームと展覧会鑑賞を実施した。また、保育園児を対象に冬の所蔵作品展の園児鑑賞ツアーを実施した。</p>			
協議会委員の意見欄			
<p>事業の感想やコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度より高い参加者数の目標値を掲げ、達成できたことは美術館の努力の成果である。 ・赤ちゃんアート等ユニークな試みが見られ、特徴の一つになっていて魅力を感じる。 <p>赤ちゃんアートは、子どもと親と一緒に楽しめ、小さい頃の造形遊びは大切な体験です。また、母親同士の交流の場としても活きていると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や小学生に体験の場を提供することは重要です。 			
<p>今後期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方と新たな試みを実施され、地域との連携がさらに良い形で展開されることが美術教育の普及に欠かせないと思います。 ・幼いうちから美術館の雰囲気や本物の作品に触れことは心を豊かにするので、今年度のような幼児、小学生を対象とした企画をさらに進めていただきたい。 ・ワークショップの様子や小学校の子どもの声、アートカードの活用についてわかりやすくHPにアップしていただきたい。教員にとっても参考になると思います。 ・所蔵作品をもっと活かす工夫をしていただきたい。 			
<p>【美術館の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の赤ちゃんアートなど、赤ちゃんから高齢者まで切れ目のない幅広い年齢層を対象としたワークショップの充実を図っていきます。 			

重点項目	重点項目2 地域文化の活性化	番号	2 - 9
事業名	魅力ある美術展覧会事業		
事業概要	多様な年齢層が国内外の優れた近現代美術作品に接する機会を充実するため、テーマを設定した企画展と所蔵品を活用した特集展を開催します。		
主な行動目標	美術に対する関心を高めてもらうため、観覧者数を増やします。 目標値は、展覧会への観覧者数		
平成26年度 目標値	平成26年度 実績値	平成27年度 目標値	
85,000人	86,307人	90,000人	

1 平成26年度の実績（平成26年12月28日現在）

展覧会名	観覧者数
「石田徹也展」	18,066人
「プラティスラヴァ世界絵本原画展」	11,913人
「横山大観の富士展」	16,414人
「袴田京太郎展」	13,976人
「新収蔵作品展」	8,937人
「松尾敏男展」	15,702人
「冬の所蔵品展」	625人
ロビー展 「小田薫の彫刻」	674人
合計	86,307人

特記事項

- ・石田徹也展は若い世代、絵本展は親子や子ども、大観展は中高年の世代に人気があった。
- ・絵本展では、親子割引（2,458人）・相互割引（151人）・開館時間延長（286人）を実施した。
- ・大観展では、市内から撮影した富士山の写真を市民公募、絵本展では、子どもが選ぶ「ひらつか子ども審査員賞」など館を訪れる方が参加できる取組みを実施した。

協議会委員の意見欄

事業の感想やコメント

- ・様々な世代を視野に入れた展覧会の開催、また、市民や観覧者の参加を促す試みなど、とても工夫した事業展開をしている。どの展覧会も企画が素晴らしい。
- ・施設や予算規模等から考え、地方美術館として健闘している。内容も特色があり評価できる。
- ・硬軟のバランスの良い企画である。所蔵品のアピールを工夫していただきたい。
- ・大観展で、富士山の写真の市民公募は、さらに関心を高めたとと思う。絵本展での子ども審査員賞はユニークな企画、WSの大きなネコの絵もよかった。

今後期待すること

- ・市美術館の原点は大切にしつつ、時代を見据えた冒険的な試みの実現を期待します。
- ・展覧会プラス市民を含めた何かがあると魅力ある展覧会になると思います。
- ・夏休み期間の企画展は、幼児から大人まで想いが残る場として今後も提供していただきたい。

【美術館の取組み】

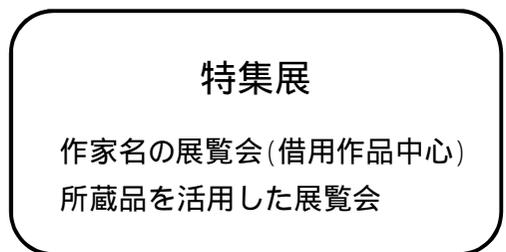
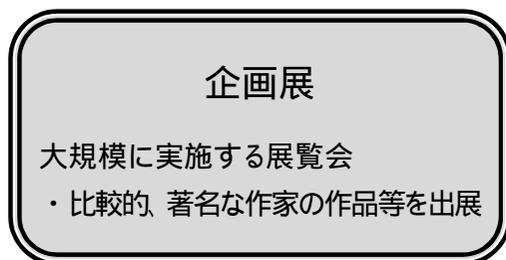
- ・実施時期に合わせて世代や内容など、バランスのとれた展覧会開催に努めます。
- ・展覧会に合わせた市民参加ができる企画を考えていきたい。

重点項目	重点項目3 生涯学習施設の総合的な活用	番号	3 - 13	
事業名	アートギャラリー等施設利用促進事業			
事業概要	来館者の安全の確保と美術品の良好な保存のため、施設の補修や保守点検等適切な維持管理をします。			
主な行動目標	アートギャラリーやミュージアムホール等施設の利用促進をめざします。			
平成26年度 目標値	平成26年度 実績値	平成27年度 目標値		
—	—	66,000人		
1 平成26年度の実績（平成26年12月28日現在）				
	施設名	利用団体数	利用日数	入場者数
	市民アートギャラリー	50団体	234日	45,437人
	ミュージアムホール	39団体	39日	2,462人
	アトリエ	5団体	5日	142人
	合計	94団体	—	48,041人
特記事項				
<p>11月に弦楽四重奏によるミュージアムコンサート「秋の音楽祭」を実施した。（202名参加）</p> <p>こども年賀状とおとな絵手紙展は、319作品が集まり、ボランティアの協力で展示することが出来た。</p> <p>また、館を訪れる方の安全と施設の快適利用のため定期的に館内を巡視し、維持管理を行った。</p> <p>平成26年度の目標値は、ありません。</p> <p>平成27年度から目標値を新規設定。（アートギャラリー等の利用者数）</p>				
協議会委員の意見欄				
事業の感想やコメント				
<ul style="list-style-type: none"> ・とても丁寧な施設利用と維持管理がされている。安心、安全な施設管理は、来館者にとって大切なことです。 ・ミュージアムコンサート等は、施設の有効利用と来館者層を広げる試みとして努力をされているのがよくわかります。 ・市民アートギャラリーの利用日数、入場者数は非常に充実している。小中学生の作品展は、展覧会以外で世代を越えた方に美術館を知っていただく良い機会を望みます。 				
今後期待すること				
<ul style="list-style-type: none"> ・施設がさらに有効に活用されるよう期待します。 ・ミュージアムコンサートは、今後も企画して毎年の実施を望みます。 ・ミュージアムホールやアトリエの利用について一層PRし、利用者を増やしてもらいたい。 				
【美術館の取組み】				
<ul style="list-style-type: none"> ・市民アートギャラリー等の施設のPRと利用促進に努めます。また、中長期の修繕計画を立て施設の維持管理を進めます。 				

重点項目	重点項目5 情報活用への支援	番号	5 - 3
事業名	美術品の調査・収集事業		
事業概要	美術品の収集活動・調査研究や保存活動等を行い、作品情報等をホームページや情報コーナーで公開します。		
主な行動目標	最新のデジタル画像を提供するため、更新を行います。		
平成26年度 目標値	平成26年度 実績値	平成27年度 目標値	
—	—	44	
<p>1 平成26年度の実績</p> <p>作品の購入 0点</p> <p>作品の寄贈 34点</p> <p>作品の寄託 21点</p> <p>特記事項</p> <p>寄贈34点のうち平成26年度に開催した「松尾敏男展」の作品2点、寄託21点のうち平成26年度に開催した「石田徹也展」の作品13点、「ロビー展小田薫の彫刻」の作品3点を含んでいる。</p> <p>これらの寄贈・寄託作品は、来年度以降の所蔵品展で市民に公開予定。</p> <p>平成26年度の目標値は、ありません。</p> <p>平成27年度から目標値を新規設定。(最新デジタル画像公開件数)</p>			
協議会委員の意見欄			
<p>事業の感想やコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵品の充実を図ることは、美術館の重要な役割。特に湘南地域や市にゆかりのある作家の収集はこの地域の芸術文化を後世に伝えていくためにも大切です。 ・デジタル映像の公開は、美術館の持つ資源の活用として評価できる事業です。 ・地道な調査、収集の継続をしていただきたい。 ・価値ある作品の寄贈は大いに受けるべきで、情報提供も必要です。 <p>今後に期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よき作家を発掘し、作品収集に結びつけていただきたい。 ・寄贈等の作品のテーマ別等で展示していただきたい。 ・作品購入のための長期計画や予算が必要です。 ・HPで公開する際、画面いっぱいに表示できると細部まで観察でき、授業等での利用価値も高まります。 			
<p>【美術館の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会開催を通じて、作品の寄贈等となるように努めます。 ・所蔵作品の充実とホームページ等の継続的な情報更新に努めます。 			

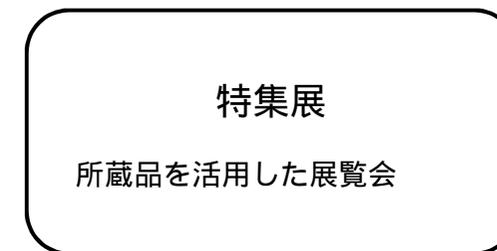
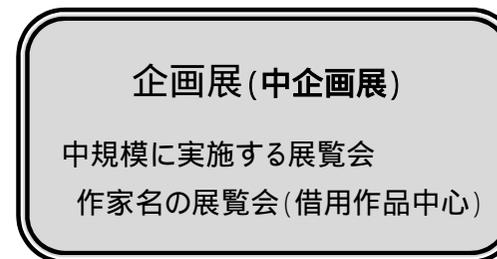
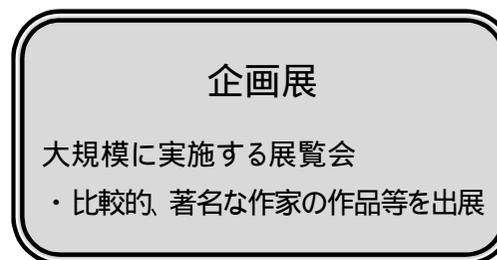
展覧会（企画展・特集展）の位置付けについて

現在の展覧会



袴田京太郎展・松尾敏男展
新収蔵品展・冬の所蔵品展・春の所蔵品展

今後の展覧会（28年度以降）

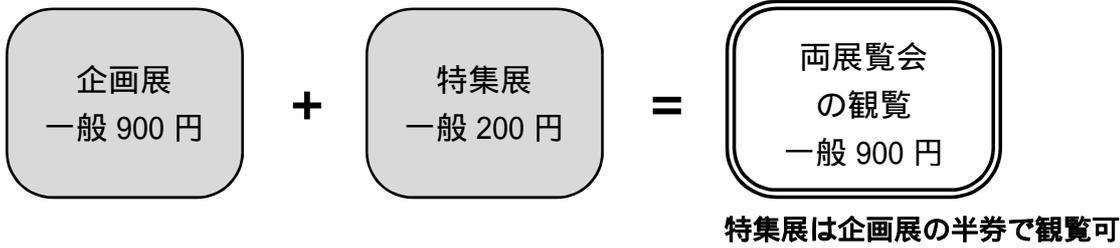


【H26年度の例】
石田徹也展
プラティスラヴァ世界絵本原画展
横山大観の富士展

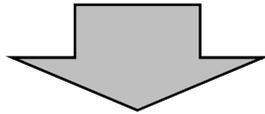
【H26年度の例】
袴田京太郎展
松尾敏男展

【H26年度の例】
新収蔵品展
冬の所蔵品展
春の所蔵品展

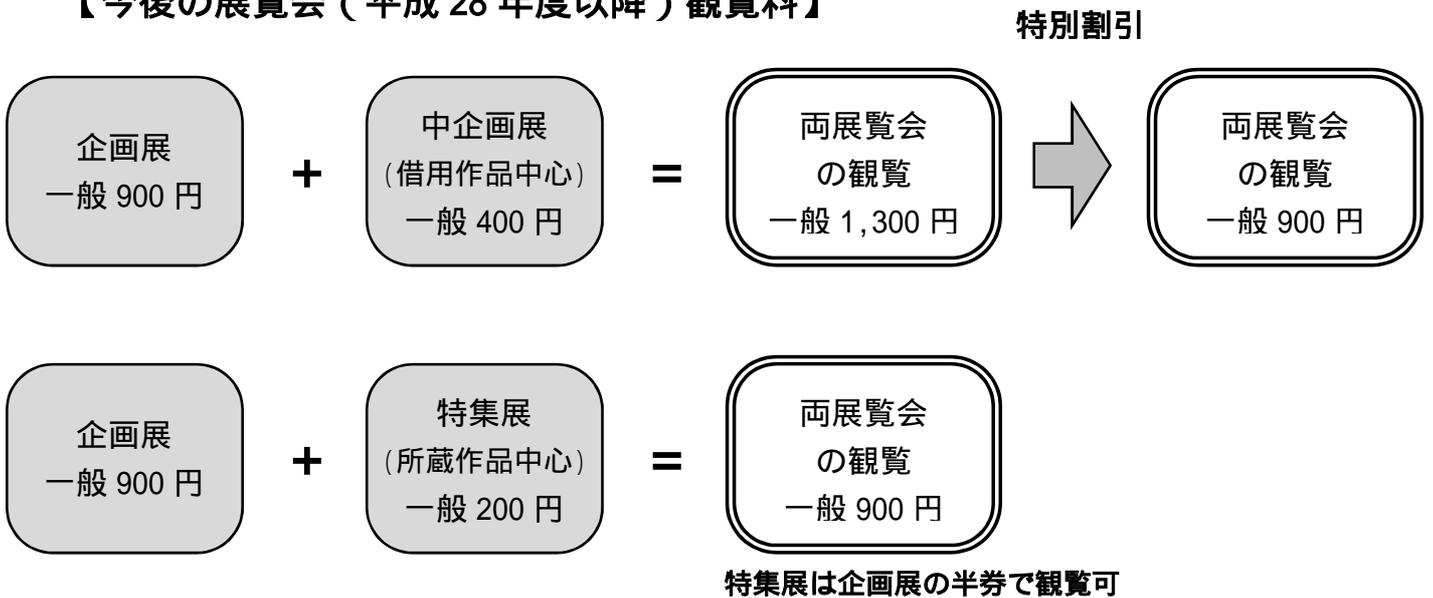
【現在の展覧会観覧料】



- ・企画展...特集展に対し、比較的著名な作家や作品等を出展する展覧会。
- ・特集展...作家名の展覧会（借用作品中心）又は、所蔵品を活用した展覧会。



【今後の展覧会（平成 28 年度以降）観覧料】



条例等による規定

平塚市美術館の設置及び管理等に関する条例（抜粋）

（観覧料）

第 9 条 美術館に展示されている美術館資料を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める額の観覧料を納付しなければならない。

別表第 1（第 9 条関係）

観覧料

区分	特集展		企画展
	個人	団体(20人以上)	
一般	200 円	140 円	1 人 1 回につき 1,500 円を超えない範囲
高校生・大学生	100 円	70 円	内において教育委員会が別に定める額

平塚市美術館の設置及び管理等に関する条例施行規則（抜粋）

（観覧料等の減免）

第 1 2 条第 2 項 前項に掲げる場合のほか、教育委員会が特に必要と認めたときは、観覧料等を減額し、又は免除することができる。

（観覧料の免除の特例）

第 1 3 条 特集展が企画展と同時に開催している日に有料の企画展を観覧した者のうち、同日中に特集展を観覧する者は、特集展の観覧料を免除する。